

千葉県廃棄物処理施設設置等審議会

議 事 録

平成27年度 第4回

議題

- (1) 株市原ニューエナジーの一般廃棄物焼却施設及び産業廃棄物焼却施設変更計画について
- (2) エコシステム千葉(株)の一般廃棄物焼却施設設置計画について

平成27年度 第4回千葉県廃棄物処理施設設置等審議会 議事録

1 日 時

平成28年3月16日（水） 15:00～17:00

2 場 所

千葉市文化センター5階セミナー室（千葉市中央区中央2-5-1）

3 出席者

審議会：6名

事務局：生駒環境対策監，大竹次長

廃棄物指導課：葉岡部課長，強口副課長，石崎室長，安藤主幹，勝又主幹，
坂元主査，西田主査，久保田主査，宮腰主査，川股副主査，
多田副主査，分部副主査，鈴木技師

君津地域振興事務所：中村技師

環境研究センター：大石研究員

4 議 事

- (1) 株式会社市原ニューエナジーの一般廃棄物焼却施設及び産業廃棄物焼却施設変更計画について
- (2) エコシステム千葉㈱の一般廃棄物焼却施設設置計画について

5 議事要旨

- (1) 株式会社市原ニューエナジーの一般廃棄物焼却施設及び産業廃棄物焼却施設変更計画について

平成28年1月18日に開催した第3回千葉県廃棄物処理施設設置等審議会において、委員からの指摘のあった点についての事業者修正回答を説明し、委員からの意見はなかった。計2回の審議により本計画については審議を終了とした。

- (2) エコシステム千葉㈱の一般廃棄物焼却施設設置計画について

事業者より設置計画の概要説明の後、各委員より意見が出された。
本計画案件は、継続審議となった。

委員：周辺に住居等はないとのことだが、資料には図面等で示してほしい。既存資料の中で、若干浮遊粒子状物質の濃度が高いので、長浦局のデータを見せていただきたい。

委員：調査は、当時の定常的な稼働において、行ったのか。その際の受入れの廃棄物の品目別の量を見せて頂きたい。

委員：ダイオキシンの測定頻度が低く、長浦局の浮遊粒子状物質の環境基準の達成率が

低い。貴社の原因と言い切れないが、以前、周辺住民へのアンケートで洗濯物が黒く汚れるとの結果がある。袖ヶ浦エリアから出している可能性もある。リアルタイムで測定していないので、分からないが、ばい煙にくっついてくるので、注意して頂きたい。

委員：処理する一般廃棄物の種類で、焼却灰、ばいじんとはどのようなものを想定しているのか。

事業者：掘り起こしたものを想定しています。また、災害が起きた時に混廃としてきたものも想定しています。産業廃棄物があれば、選別します。

委員：一般廃棄物は、腐敗性が高いので、保管はあまりできないと思うが、ゴミが搬入されてから処分までどれくらい時間がかかるのか。

事業者：受けて当日に投入し、翌日には処分が終了します。

委員：臭気対策にもなるので、記載すること。

委員：保管面積に対して、容量が1.1倍だが、なぜか。産業廃棄物の容量はもっと大きい。

事業者：一般廃棄物については、ためないのが原則としています。

委員：いずれ保管しなくてはいけない状況もあるのではないか。災害時の対応として、塩分の問題があるが、どのような対策をとっているのか。操業がとまるようなことはないのか。

事業者：影響はないと思われます。

委員：液状廃棄物の漏洩対策として井戸位置は、どのように設置したのか。

事業者：上流側，下流側，その間と3本設置しました。

委員：モニタリングだけではすまないと思うが、対策はどのようなことを考えているのか。

事業者：これまでに漏洩はありません、もし漏洩しましたら、上流側を調査し、原因を調査します。また、毎日ピットも清掃します。

委員：原因を突き止めるのは良いが、緊急対応を考えていないのか

事業者：定期的な観測と緊急時にはすぐ対策が取れるように、年に4回観測しています。

委員：言っている内容と実施内容に乖離がある。

委員：建物情報の確認が2009年に作ったものが、遡って昭和56年の基準を用いているのはなぜか。その間神戸の地震があり、地震問題は懸案である。相当高い建物を作り、それが埋立地の軟弱地盤で上であり、長周期問題への安定性はどこまで考えているのか。災害時の廃棄物に対応するとの計画であり、社会的に評価される施設と考えられるが、せっきくの施設が検討不足で、実質的には意味がなく、これらを抑えた上で施設の健全さ、将来においての機能性を示すべきである。

委員：本日回答できなかったことは、次回までに示して頂きたい。